

エンジニアパーク

Engineer *Ring* Park



山本 英伸 建設部門（土質及び基礎）

勤務先：有限会社 ノーステックコンサルタント

1980年（昭和55年）に大学を卒業し、ゼネコンとコンサルタント会社勤務を経て、現在の会社の代表（兼）技術者（兼）掃除係として10年目に突入しました。

私の仕事は地すべり・落石・雪崩・斜面崩壊などの防災対策に関わることが大半です。生活する人々の安全を守るという大前提は十分意識しつつも、現場などでたまに、木を切って山を崩してコンクリートや鉄の構造物を作ることに疑問を感じることもあります。そんな中でここ10年くらい、土を補強して構造物を作る技術が普及して防災の分野でも取り入れられるようになってきました。単純なものなのですが素晴らしい技術だと思います。

私は大学の土木工学科で学びましたが「土木」という学科名はもうありません。言葉のイメージが暗いという話を聞いたこともあります。将来なくなる言葉かもしれません。でもやっぱり土や木は大切に、建設業界に生きる私たちが目標とすべき言葉だと思います。『ドボク』……だめですかね？

技術士として15年目を迎えますが、これまで「社会貢献」ということに対して意識が低いまま生きてきました。しかし50才到達を目前に控え、私生活では愛犬モモの残りの寿命を心配しつつ、おそまきながら自分の技術分野を通じて美しい北海道の発展に貢献したいと考えています。



次号は、福内 久さん（建設部門）



岡田 昌樹 機械部門（機械加工及び加工機）／総合技術監理部門

勤務先：旭川工業高等専門学校 機械システム工学科

北海道庁を退職し、この4月から旭川高専の新米教員となりました。旭川高専は、NHKで放映されるロボコンの常連校で、全国大会優勝2回、ロボット大賞1回受賞の輝かしい実績を持つ強豪でもあります。早速、私もロボコン部の顧問の一人として、優勝目指して知恵を絞る毎日が始まりました。今年のテーマは何と騎馬戦です。さて、本報告では旭川高専に赴任して、驚いたことについて、いくつか報告させていただきます。

その1. 平成11年から従来の5年間の高専教育の上に修業年限2年の専攻科ができ、専攻科修了と同時に学士と技術士補の資格を得られることになりました。旭川高専がJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けているためのメリットですが、この審査には学校側の涙ぐましい努力があります。その2. 大学への隠れた近道であります。高専は設立以来、就職率の高いことで有名でしたが、最近は進学率が40%以上と高くなっています。一般的なケースは、高専5年卒業後に一流大学へ編入（3年へ）するものですが、専攻科を修了してから大学院へ進学するケースも増えています。ちなみに私の所属する機械システム工学科では、東京大学や東京工業大学へ編入する学生もいます。このように、素晴らしい環境の中で、将来の日本を担う若いエンジニアと喜怒哀楽を共有できる日々を幸せに思い、北のものづくりは旭川から発展させたいと取り組んでいます。お会いしたことのない方でも近くへお越しの際は、是非お立ち寄りください。世のために役立つものを一緒に作りましょう！



次号は、高石富生さん（建設部門）